

市場動向

■USD/TWD



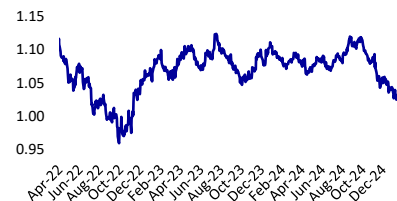
■USD/JPY



■JPY/TWD



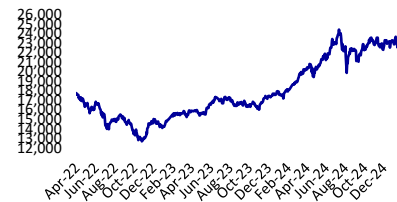
■EUR/USD



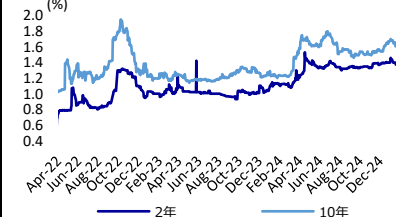
■USD/CNH



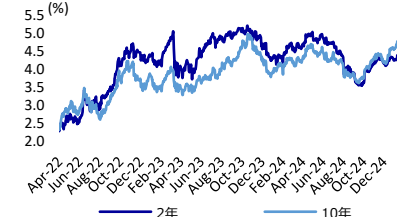
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初1/13は32.980でオープン後、米雇用統計の結果を受け、米金利の上昇やリスク回避に伴うドル買いが先行し、その後も台湾株の大幅安が嫌気され、ドルは一時33.136まで上昇。1/14は、米金利高に伴うドル買いで一時33.120まで上昇したものの、台湾株の反発でリスク許容度が回復したことに加え、輸出企業のドル売りも加わり、台湾ドルは反発。1/15は、台湾株の反発がやや失速したことや、海外におけるドル高を受け、一時33.081まで上昇。しかし、米12月CPIの発表を控え、値動きは限定的に留まった。1/16は、台湾株の大幅上昇によるリスク許容度の増加で、台湾ドルは底堅く推移し、一時32.895まで上昇。1/17は、台湾半導体大手の決算が予想を上回ったため、リスクセンチメントの改善で外資による資金流入フローが見られ、一時32.875まで下落。しかし、トランプ氏の大統領就任式を控え、もみ合い相場となった。最終的には前週比0.12%ドル安台湾ドル高の32.926で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は584.5億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は下落。週初1/13は157.80でオープン後、米国発の株安を背景に、リスク回避の円買いでドルは一時157円割れとなったものの、米金利の高止まりでドルの下値は堅く、概ね157円台で推移。1/14は、トランプ次期政権が月に約2-5%の段階的関税引き上げを検討するとの報道で、急激なインフレを回避できるため、ドルは一時157円台前半まで下落。1/15は、日銀植田総裁が1月会合で利上げ判断と明言。市場不安定化で利上げ見送りはあり得るが、1月利上げ確度の上昇を受け、円全面高。海外時間、米12月CPIが予想を下回ったため、ドル売りが先行し、一時155円台後半まで下落。1/16は、米金利の低下でドル売り優勢の展開が続き、一時155円台前半まで下落。欧米時間では、米12月小売売上高はコア+0.7%で想定以上となったため、ドルの買い戻しで156円台まで回復したものの、上値は重い。1/17は、「トランプ次期米大統領と習中国国家主席の電話会談が前向きだった」との速報が伝わると、米株高等のリスクオンムードを背景に円売りが強まり、156.37まで上値を伸ばす底堅い推移。午後は156.10付近まで反落する場面もあったが、終盤にかけて徐々に値を戻し、最終的には前週比0.91%ドル安円高の156.30で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.600-33.000

今週のドル/台湾ドルは上値の重い推移を見込む。先週発表されたインフレ指標が市場予想を下回ったため、米金利の下落とともにドル高が一服。リスクセンチメントの改善で台湾ドル買いをサポートするだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：152.30-157.30

今週のドル/円は下落を見込む。大統領選勝利後にトランプ氏が示した政策から内容が大きく乖離するものでなければ、これまで積みあがったポジションの調整の動きからドル売りで反応すると思う。先週、日銀高官がそれぞれ1月会合での利上げの可能性を示唆したこと、円が買われやすいだろう。

今週の予定

1/20 (MON)	日11月機械受注、米トランプ大統領就任式
1/21 (TUE)	台湾12月輸出受注
1/22 (WED)	台湾12月失業率
1/23 (THU)	日12月貿易統計
1/24 (FRI)	日12月CPI、1月製造業PMI、日銀金融政策決定会合、米12月中古住宅販売件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。